

[普及事項]

成果情報名：アスパラガス半促成栽培における赤色防虫ネットを用いたネギアザミウマに対する薬剤防除回数の削減

研究機関名 農業試験場 生産環境部 病害虫担当
担当者 蛭川泰成・高橋良知

[要約]

アスパラガス半促成栽培において、赤色防虫ネットを設置し、ネギアザミウマの1回目の急増期である6月下旬とその後、収穫物への被害が確認される時期に薬剤防除を行うことで、本種による収穫物への被害を抑制でき、薬剤防除回数を削減できる。

[キーワード]

アスパラガス半促成栽培・ネギアザミウマ・赤色防虫ネット・薬剤防除回数

[普及対象範囲]

県内全域

[ねらい]

県内で導入が進んでいるアスパラガス半促成栽培の主要害虫は、ネギアザミウマである。生産現場では、本種に対する薬剤防除を2週間に1回程度実施しているが、赤色防虫ネット（図1）は、本種に対する侵入抑制効果が認められており、薬剤防除回数の削減が期待できる。

[成果の内容及び特徴]

- 1 赤色防虫ネットは、ハウスの出入り口、側窓、妻窓に展張した（図1）。
- 2 防虫ネットを設置しないほ場でのネギアザミウマを対象とした薬剤防除回数は、5～6回であった。一方、赤色防虫ネット設置ほ場での薬剤防除回数は3回であり、本種の1回目の急増時期である6月下旬と収穫物への被害が確認された8月、9月に実施した（表1、2）。
- 3 赤色防虫ネット設置ほ場における青色粘着板への誘殺虫数は、防虫ネットを設置しないほ場と比較して少なく推移し（図2）、収穫物の被害も少なくなった（図3）。
- 4 以上のことから、赤色防虫ネットを設置し、本種の1回目の急増時期である6月下旬とその後、収穫物への被害が確認される時期に薬剤防除を行うことで、被害を抑制し、薬剤防除回数を削減できた。

[成果の活用上の留意点]

- 1 試験は、令和5年に大仙市、にかほ市の現地ほ場で実施した。薬剤防除は、散布液量300L/10aとし、慣行の展着剤を加用して実施した。
- 2 赤色防虫ネットは、日本ワイドクロス株式会社製サンサンネットクロスレッドXR-2700（目合0.8mm）を使用した。
- 3 7月以降は、収穫物を観察し、被害が認められた時期に速やかに薬剤防除を行う。
- 4 ハウス周辺の雑草は、本種の発生源となるため、定期的に除草を行う。
- 5 防虫ネットの設置により、通気性が悪くなる可能性があるため、斑点性病害対策として、立茎本数を適切に保って過繁茂を避ける。

[具体的なデータ等]



図1 赤色防虫ネットを展張したハウス

表1 薬剤の防除履歴（大仙市）

区	薬剤防除日								防除回数
	6/13	6/24	7/7	7/26	8/15	8/27	9/11	9/27	
赤色防虫ネット設置	—	ファインセーブフロアブル ¹⁾ (2,000倍)	—	—	—	スタークル顆粒水溶剤 ²⁾ (2,000倍)	ディアナSC ²⁾ (2,500倍)	—	3回
防虫ネット無設置	スタークル顆粒水溶剤 (2,000倍)	—	コルト顆粒水溶剤 (4,000倍)	コテツフロアブル (2,000倍)	スピノエース顆粒水和剤 (5,000倍)	—	³⁾	ディアナSC (2,500倍)	5回

- 1) ネギアザミウマの1回目の急増時期
- 2) 収穫物への被害が確認された時期
- 3) ネギアザミウマ以外の害虫を対象とした防除(9/11はアフーム乳剤 2,000倍)

表2 薬剤の防除履歴（にかほ市）

区	薬剤防除日										防除回数	
	5/23	6/8	6/24	6/30	7/9	7/25	8/9	8/22	9/5	9/18		9/24
赤色防虫ネット設置	—	—	—	ファインセーブフロアブル ¹⁾ (2,000倍)	—	—	スタークル顆粒水溶剤 ²⁾ (2,000倍)	—	ディアナSC ²⁾ (2,500倍)	—	—	3回
防虫ネット無設置	スピノエース顆粒水和剤 (5,000倍)	³⁾	スタークル顆粒水溶剤 (2,000倍) + モメントフロアブル (2,000倍)	—	³⁾	コテツフロアブル (2,000倍)	³⁾	モスピラン顆粒水溶剤 (4,000倍)	カスケード乳剤 (4,000倍)	³⁾	ディアナSC (2,500倍)	6回

- 1) ネギアザミウマの1回目の急増時期
- 2) 収穫物への被害が確認された時期
- 3) ネギアザミウマ以外の害虫を対象とした防除(6/8、7/9、9/18はアディオン乳剤 2,000倍、8/9はアフーム乳剤 2,000倍)

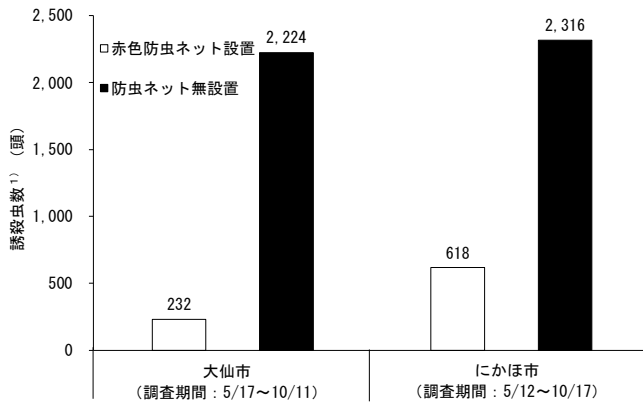


図2 青色粘着板による誘殺虫数

1) 粘着板はハウス内の側窓付近の2カ所に設置

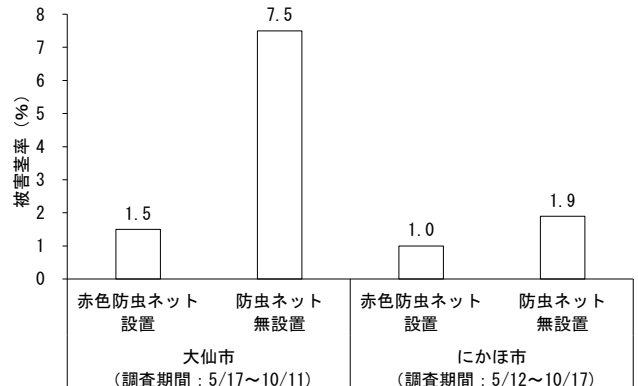


図3 収穫物における被害茎率の比較

[その他]

研究課題名：先端技術を活用した新たな園芸作物病害虫防除技術の開発

研究期間：令和3年度～令和5年度

予算区分：県単

掲載誌等：第77回北日本病害虫研究発表会、アスパラガス半促成栽培マニュアル（2024）